

(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

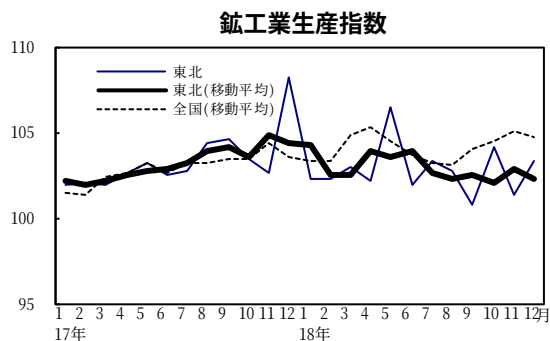
前回からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

10－12月期には、電子部品・デバイス、スマートフォン及び車載向けコネクタ等が増加したことにより、増加した。食料品は、水産物等が減少したことにより、減少した。化学・石油製品は、ガソリン等が減少したことにより、減少した。輸送機械は、工場の生産集約等により乗用車が増加したことにより、増加した。生産用機械は、半導体製造装置が減少したことにより、減少した。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

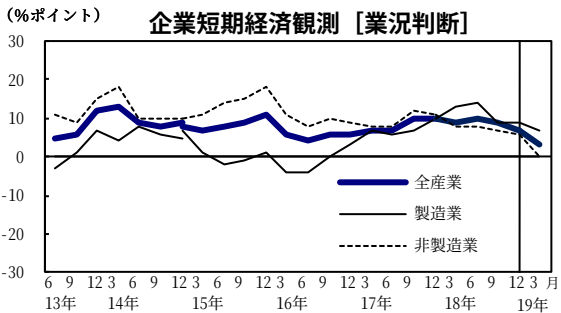
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7－9 月期	10－12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	15.3	▲1.6	4.5	5.3	1.6	▲3.5
食料品	11.0	▲0.4	▲1.1	▲2.9	2.0	▲1.8
化学・石油製品	9.1	▲2.7	▲4.1	▲7.4	5.8	12.9
輸送機械	7.9	▲2.5	15.3	19.3	3.9	▲8.1
生産用機械	6.7	▲10.5	▲9.2	0.8	▲21.8	19.8
鉱工業	100.0	▲1.2	0.6	3.3	▲2.6	1.9

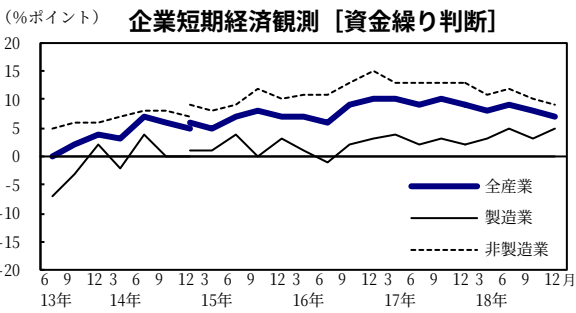
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10－12月期、12月は速報値。

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

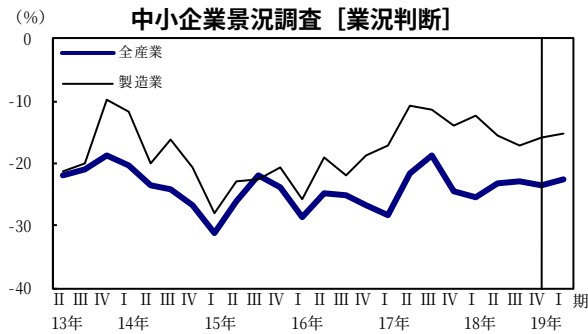
① 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

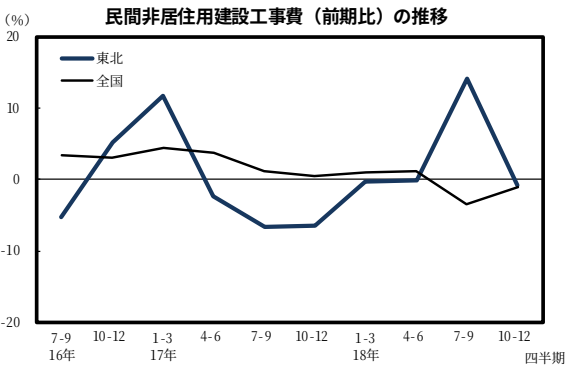


(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。2019年I期は見通し。

② 景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「企業の設備投資はそれなりである。また、大雪の影響で除雪関連業者の仕事もある (金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



(備考) 1. 季節調整値。
2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]		
(前年度比、%)		
	2017年度実績	2018年度計画
全産業	▲5.2	12.3(▲0.7)
製造業	▲7.6	14.6(▲0.6)
非製造業	▲2.1	9.6(▲0.8)

(備考) ()は前回 (9月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

① 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比1.1%減、11月は同0.6%増、12月は同1.8%増となった。

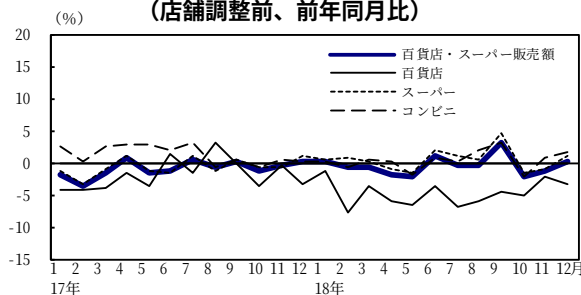
② 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、衣料品、飲食料品共に減少したことから前年を下回った。11月は、美術・宝飾などに動きがみられたものの、衣料品、飲食料品共に減少したことから、前年を下回った。12月は、引き続き衣料品、飲食料品共に減少したことから、前年を下回った。
スーパーは、10-12月期は、衣料品、飲食料品共に前年を減少したことにより、前年を下回った。

③ 景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[家計動向関連（現状）]

「来客数は前年を上回っているものの、客単価は依然として前年割れの状態が続いている（スーパー）」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



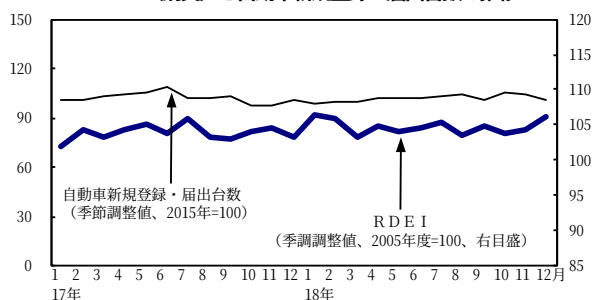
	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	0.1	▲1.1	0.6	1.8
百貨店・スーパー(*2)	▲0.9	▲2.1	▲1.2	0.2
百貨店(*2)	▲3.5	▲5.1	▲2.2	▲3.3
スーパー(*2)	▲0.4	▲1.5	▲0.9	1.0
コンビニ(*2)	0.1	▲2.2	0.8	1.7
乗用車(*3)	5.8	9.7	7.0	0.1
(季節調整値)(*3)	1.1	4.9	▲0.9	▲3.6

(備考) 1. 季節調整済前月(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

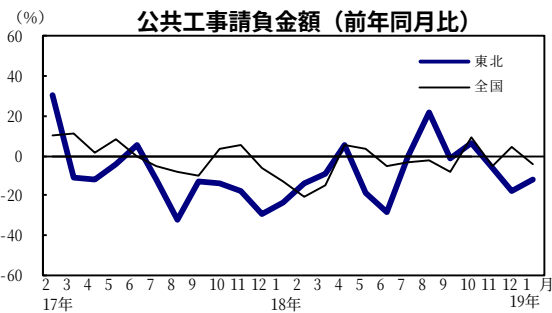
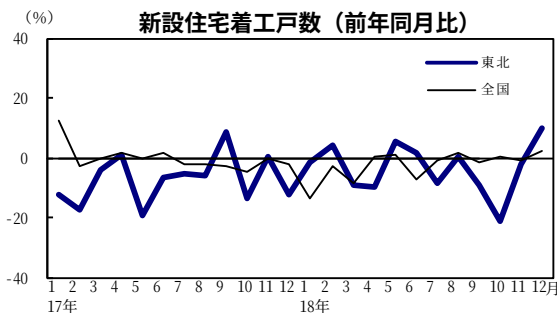
RDEI（消費）と自動車新規登録・届出台数の推移



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を下回っている。

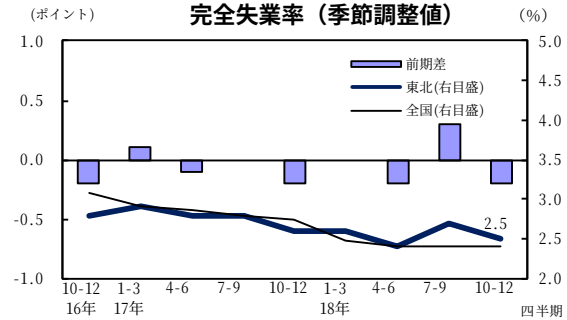
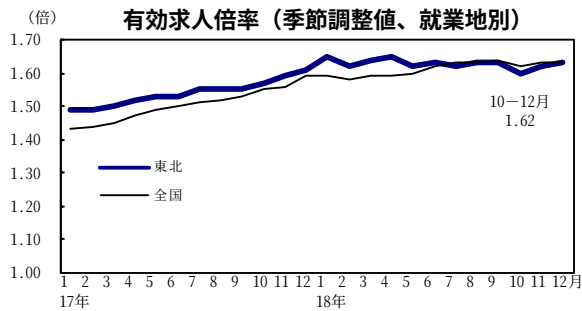


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

① 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



② 景気ウォッチャー調査（1月調査結果）〔雇用関連（現状）〕

「求人数の動きは全業種共に応募が少ない状況が続いており、引き続き企業は求人活動をしている（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の増減幅が同水準となっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2019年1月
倒産件数 (前年比)	80 15.9	103 25.6	94 14.6	81 ▲10.0	17 ▲26.1
負債総額 (前年比)	167 11.3	146 16.3	186 36.6	162 ▲35.0	90 ▲3.8

